

第六回 さいくう西脇殿歴史フォーラム

シンポジウム「^{たい}齋宮への^{どう}胎動」 ～齋宮前夜の地域事情～

開催予定

日時 平成30年3月24日(土)
13時30分から16時
受付は13時から

史跡公園

会場 ^{もり}さいくう平安の杜 西脇殿

参加方法 先着100名 参加無料

詳細は裏面をご覧ください

りょうちょう

平安時代はじめの齋宮「寮庁」のようすを再現した「さいくう平安の杜」の復元建物で、齋宮やこの地域の歴史・文化に触れ・感じ・学べるシリーズ「さいくう西脇殿歴史フォーラム」もいよいよ平成29年度の最終回です。

今回は、齋宮が多気郡明和町の地に営まれた前後のこの地域の実像を、齋宮歴史博物館の研究者たちが熱く語ります。

齋宮歴史博物館

シンポジウム 「齋宮への胎動」～齋宮前夜の地域事情～

《基調報告》

① 「集落からみた齋宮成立前後」～古墳時代から飛鳥時代への変革～

(齋宮歴史博物館調査研究課 川部浩司)

飛鳥時代に成立した齋宮はどのような構造だったのか。また、齋宮成立以前の古墳時代はどのような状況だったのでしょうか。伊勢地域の古墳時代から飛鳥時代の集落遺跡の動向をふまえながら、その実態に迫っていきます。

② 「古墳からみる齋宮が始まるころ」～木で造られた棺と多気郡のはなし～

(" 宮原佑治)

飛鳥時代に大来皇女おおくのひめみこが伊勢にやってくる少し前、明和町がある多気郡にはたくさんひつぎの古墳が造られていました。こうした古墳に埋葬された人々は、齋宮とどのような関係があったのでしょうか？古墳から見つかる木の棺、その痕跡からたどります。

③ 「服部氏と麻績氏の原像を探る」～齋宮成立前後の多気郡氏族～

(" 穂積裕昌)

伊勢神宮の神衣祭に奉仕した服部氏と麻績氏は、齋宮が置かれることになる多気郡に基盤を持った氏族でした。彼らはどんな氏族で、伊勢神宮や齋宮とどのような関係があったのでしょうか？残された文献や関連遺跡などからその原像を探ります。

《シンポジウム》

「齋宮への胎動を解明する」

パネリスト 川部浩司・宮原佑治・穂積裕昌

司会・進行 大川勝宏 (齋宮歴史博物館調査研究課)

○日 時 平成30年3月24日(土) 13時30分から16時

○会 場 史跡公園「さいくう平安の杜」西脇殿
多気郡明和町齋宮2800番地

○参加方法 当日会場先着100名とします 受付は13時から 参加無料
※荒天や地震等により、やむを得ず中止する場合があります。下記問い合わせ先
にご確認ください。

○問い合わせ先 齋宮歴史博物館 「さいくう西脇殿歴史フォーラム」係
TEL 0596-52-3800(代) FAX 0596-52-3724